平成 26 年度

発達障害の可能性のある児童生徒に対する早期支援研究事業

成果報告書（概要版）

実施機関名（長浜市教育委員会）

1．テーマ

個々の教育的ニーズに基づく適切な教育環境の構築と，同じ場で共に学び合う授業づくりを推進することにより，子どもたちに対する指導方法の改善と早期支援を行う。

2．問題意識・提案背景

平成２４年度～平成２６年度の市が行った調査では，通常の学級に在籍する児童生徒のうち，個別の指導計画を立て特別な教育的支援を行っている割合は，全国平均とされる６．５％を超え，増加傾向にある。このような状況から，本市においては，個に応じた指導・支援の充実が求められている。 学校現場においては，これまで「どの子にとっても分かる，できる授業づくり」ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた授業づくりを進めてきた。その取組の中で，発達に課題のある子どもを含めた個々の発達特性や認知特性を明らかにし，個々の教育的ニーズをつかみ，それに対する的確な指導を進めることが一層重要だと考えた。 また，人とのコミュニケーションが上手くとれず人間関係が構築できない児童も多く，それに対し指導がなかなか適正にできず，苦慮している状況がある。そこで，市内の小学校２校を研究指定校とし，適切な実態把握，個々の教育的ニーズに基づく適切な教育環境の構築，指導方法の改善と早期支援を行うための実践研究を進めていくこととした。

3．指定校について

（小学校の場合）

指定校名：長浜市立長浜小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	１５７	５	１６２	５	１３２	４	１７３	５	１５１	５	１５２	４
特別支援学級	２		８		３		５		４		７	
通級による指導の対象者数	１		３		３				４		１	
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ＡＬＴ	事務職員	特別支援教育支援員	スクールカウンセラー		その他	計
教職員数	１	２	３８	２	３	２	２	３	０		０	５３

指定校名：長浜市立北郷里小学校												
学級数及び児童生徒数												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	３６	２	３４	１	３０	１	４３	２	４６	２	３６	１
特別支援学級	０		２		２		１		２		１	
通級による指導の対象者数	１		１		０		０		１		０	

教職員数										
校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育支援員	ｽｸｰﾙｶｳﾝｾﾗｰ	その他	計
１	２	１５	１	５	２	１	１	０	０	２８

4．指定校における取組概要

長浜市ではモデル校２校に２名の発達障害支援アドバイザーを活用した。発達支援アドバイザーが，授業参観や児童観察の時間を通してそれぞれの学級や児童のアセスメントを行い，教員と共にそれぞれの学級課題や児童の課題を明確にした上で，教員への指導助言・児童の個別指導等をした。

学級アセスメントやソーシャルスキルトレーニングを取り入れ，個々の帰属度や集団性を把握すると共に，学級集団の改善を進めた。

授業づくりにおいては，全ての児童が理解しやすいノート指導の方法や，情報が整理された板書計画などの改善に視点をおいた指導方法を探求した。また，体験的学習や問題解決型の学習を基盤とした授業づくりを進めると共に，ユニバーサルデザインの観点から学習の場や教材，教具など学習環境の構造化を行った。

また，自校で通級による指導を行い，課題のある児童に対して，学習支援やソーシャルスキルトレーニングを行った。スクールソーシャルワーカー等の専門家と連携を図り，発達障害の可能性のある児童についての理解啓発と学級環境の整備を推進した。

5．主な成果

ユニバーサルデザインの考え方を取り入れ，どの子にもわかる授業改善に取り組んだ結果，集中して学習に取り組める児童が増えた。全く取り組めなかった児童が，みんなと同じように計算練習に取り組んだり，短い文章しか書けなかった児童が，長い文章を書けるようになったりした。特にノート指導については，校内研究のひとつに位置づけており，全職員が共通して取り組めたことから，系統立てた指導が図れた。家庭学習についても目的がはっきりとしたこともあり，やり忘れなどが減り，提出状況がよくなった。また，正しい話し方，聞き方のスキルを学習することで，教員と児童，児童同士の人間関係が以前より円滑になるなどの効果も見られた。

授業改善を進めていくために，今までの教育実践を振り返り見直す必要に迫られた。そのことは，個々の教員の授業や指導方法の改善点を明確にしたり，一人ひとりの児童理解の深まりにつながるなど，教員のスキルアップになった。

個別支援については，当初保護者から，本人の特性への理解が得られなかったが，個別の指導計画や具体的な支援を説明することで，発達検査や教育相談を積極的に受けてもらえるようになった。また，通級による指導により，個別の学習支援を進め，ソーシャルスキルトレーニングを行うことで，心を整え人間関係調整力を高めていった。これらの取組を進めたことで教室に入れない児童が，落ちついて学び続けることができるようになった。

6. 今後の課題と対応

全職員が，共通理解し，共通実践が行えるように，早い時期に講師を招いた校内研修を設定したい。つまずきに焦点を当て，わからなさを共有しながら学び合う授業を目指すことは，アクティブラーニングをとり入れた授業づくりや授業のユニバーサルデザイン化に通じるものであり，今後もより質の高い授業を求めていく必要がある。また，授業構成や展開等における合理的配慮のあり方については実践を通して明らかにしているところであるが，環境を整え授業を工夫した上でも，さらに個別の支援を必要とする児童がいる。それに対し，通級による指導もその手だての一つであるが，通常の授業の中で個別の合理的配慮のあり方や方法を開発していかなければならないと考える。さらに，土曜日を活用した補充学習も試行し，少人数もしくは個別の環境を生かした指導方法の開発を進めていきたい。

加えて，学級や児童のアセスメントを一層有効に活用し，早期に支援できる実践研究を進めていきたい。実践のみで終わるのではなく，教員や児童，保護者の評価や学力調査などを中心に確かな検証を行い，適宜取組に改善を加えていく必要がある。

7. 問い合わせ先

組織名：

(1) 担当部署　長浜市教育委員会事務局　教育指導課

(2) 所在地　滋賀県長浜市八幡東町 632 番地

(3) 電話番号　０７４９－６５－８６０５

(4) FAX 番号　０７４９－６５－６５４０

(5) メールアドレス　kawasaki-keiko@city.nagahama.lg.jp